

共に生きている

岐阜市立岩野田中学校 3年

神谷 康太（かみや こうた）

美しい自然。自然と触れ合う、小さな子どもやお年寄りの方々。そして、そこに住む僕。僕は地元が大好きです。誰もが愛情をもち、支えることのできる、そんな温かさがあります。それを実感するきっかけとなった3年前の出来事を僕は忘れられません。

小学校6年生の秋、僕たちの街を大きな台風が襲いました。風は鈍い音を立て、滝のような雨が降りました。電気が途絶え、復旧しないまま夜が明けました。外には、見たことのない光景が広がっていました。山の木々は倒れ、葉は全て散り、もとの美しい自然は、跡形もなくなってしまったのです。大きな木が横たわった道路は、通ることができなくなっていました。あちこちに砂や葉、ゴミが散り、町は汚れてしまったのです。

翌日の朝、近所のおじいさんを見かけました。一人、黙々とゴミを拾っていらっしゃいました。それを見かねた何人かの女性は、そのおじいさんを手伝い、一緒に作業を始めたのです。その姿に僕は感動しました。地域の人々のために力を合わせることは、とても素晴らしいことと感じました。僕も一緒になって取り組ませてもらいました。とてもキレイになり、大きな達成感を得ることができました。

みなさんは、「自助」「共助」という言葉をご存知ですか。自分の身を自分で守ること、周りの人と助け合うことが災害時には必要となることを3年前のあの出来事から学びました。僕の地元では、自助と共助を両立して災害を乗り越えることができました。日頃の備えが自助には求められます。では共助のためには何をしていくべきでしょうか。僕は「地域を愛すること」が第一歩だと考えます。あの台風の時、多くの人が清掃活動に取り組んだのは、町の美しい自然を再び取り戻したいという人々の思いが集まったからでした。誰もが、街の美しい自然を誇りに思っています。その気持ちが支えとなり、困難にも立ち向かうことができたのです。また、その出来事をきっかけとして、地域を大切に思う気持ちが更に強くなりました。

3年前の清掃活動で、僕は力仕事たくさん任せられました。大きく膨らんだゴミ袋を運び出したり、狭いところに入って掃除をするなど、とてもたくさん汗を流しました。「若いねえ。とても助かるよ。」近所のおじいさんの言葉です。自分も役に立てたのだと思うと、とても嬉しかったです。また、それと同時に、若い人の力はもっと必要になっていくことを感じました。

思い返すと、地域のボランティア活動はいつもお年寄りの方ばかり。3年前の清掃活動も若い人が少なかったです。これからの社会を誰が作り、誰が支えていくのかを考えていく必要があると思います。若者の力は、更に求められるものになっていきます。だからこそ、一人ひとりが地域を愛する気持ちが必要なのです。一人ひとりが地域を愛する気持ちを持ち、支えることのできるそんな関係を築いていけば、街はもっとよりよくなっていくと思います。また、地域だけでなく、もっと広い範囲や身近にいる人々も支えていけるような若者でありたいです。

自分一人の力では生きていくことができません。周りの人に支えられながら、生きることができているのです。そのことを胸に刻み、自ら人のためになることをしていきます。